

## CAVOK 欧州航海日誌 2012年5月7日-5月17日

### 5月7日 移動

今年は学習院ヨット部OB平田さん(34年卒)と奥様の百合子さんとご一緒のスタートとなる。

それぞれ別便でローマに入りローマ空港で一緒になりカリアリ空港に22時30分に着く。平田夫妻はホテルへ、

我々夫婦は久しぶりに CAVOK V に会い艇で休む。軽く無事到着でということでナイトキャップをやり熟睡する。海の上での睡眠は深い。

### 5月8日 Cagliari 快晴

午前中艇の清掃と平田夫妻の受け入れ準備をする。デッキをブラシで擦るが大分汚れていて流れる水が泥水化した。

フランスで知り合って冬のカリアリでの整備の時お世話になった友人の Paolo から電話が入り平田夫妻をホテルでピックアップしてくれるとの事なのでお願いします。お昼すぎに平田夫妻が Paolo と悦子と共に艇に到着して荷物を艇に置いてからお昼を Paolo お勧めのピザーラでピザを食べビールで乾杯してこれからの安全航海を願う

午後ゴムボート、陸に上がるための梯子の調整、トイレのポンプが調子悪いのでメカニックに見てもらい弁を交換する。ウエットスーツを着て潜って船底を見た所、船底自体には貝がついていなかったがバウ・スラスターとポロペラに貝がこびりついていた。

自分ではなかなか取れないので上架をして剥がそうと思ったが Paolo が上架しなくてもプロのダイバーに頼んで潜ってきれいに出来るということなのでお願いした。因みに手間賃は 100€であった。上架するより大分安く済んだ。

### 5月9日 Cagliari 快晴

相変わらず良いお天気で日中は半袖で日当たりに居ると暑いくらいである。

今日は Paolo 宅で泊まりがけでの夕食の招待を受ける。Nora の遺跡が見える彼の家のテラスでビールを飲みながらサルデーニャの空と海をながめながら気持ち良い時間を過ごす。

夕食はサルデーニャ風ポモドールのパスタ、自家製ファカッチャ、そして平田さんの奥方の百合子さんと悦子の巻き寿司を地ビール、スパークリングワイン、白ワインで頂く。ドルチェは自家製クロスタータと十二分に楽しませてもらう。

我々夫婦は冬に私が CAVOK の整備に行ったときに泊めて頂いた部屋で寝る。平田夫妻は2階の海の見えるお部屋でお休みする。大変暖かな接待に感謝する。

### 5月10日 Cagliari 快晴

彼に Nora の遺跡を見に連れて行ってもらう。ここは紀元前8世紀からの歴史がありローマ時代

の華やかなモザイクのタイルも見ることが出来た。



その後山岳方面をドライブで観光して、お昼はサルデーニャ一番と云うレストランで食事する。正に馬がそのまま食べるような人参、束のセロリ等の野菜のサラダ、身が少しい小さいが味がしまっているムール貝、イカスミリゾット、ポモドールパスタをスパークリングワインから始まり白ワインそして最後はミルトでしめる。

帰りにはセラミックの壺や百合子さんは骨董価値のあるグラスをプレゼントして頂く。

その後大きなスーパーマーケットに寄ってもらい明日からの航海の食品を買い込みマリーナまで送ってもらう。我々は翌日出港するので明日の再会を約して別れる。

艇ではゴムボートを膨らましたり、ジブセールを上げたり翌日の出港準備をする。

夕食は純日本風でご飯にメカブ昆布、梅干し、海苔の佃煮、葉唐辛子の佃煮、そして昆布だしにおねぎを入れたサッパリスープで頂く。

5月11日 Cagliari ~ Villasimius 20NM 快晴

Paolo 夫妻に見送られ 10:45 に半年お世話になったカリアリを快晴の中出港する。Paolo 夫妻にはカリアリ滞在中艇の整備ならず自宅に招待してくれたり観光案内をしてくれたり買い出しを手伝ってもらったり親身なお世話になった。いつか恩返しをしたい。

ヴィラシミアスはサルデーニャの南東端にあり自然に恵まれた環境の中にあるマリーナである。カリアリから 20NM の距離のところにある。空気の濃度が違うせいか上空 1 万メートルで見ると青い空の下、順風に恵まれ今年地中海での初セーリングが始まった。

お昼は塩おにぎりを味噌汁で頂く。もちろん冷えたビールで乾杯だ。

16:00 にヴィラシミアスに舳う。前日インターネットで予約してあったので無線でコールしたら直ぐスタッフが舳いを取りに来てくれた。まだオフシーズンで外来艇が少ないせいか棧橋に横付けにしてくれた。

夜はまだ閑散としているマリーナのスーパーマーケットで昨日買い忘れた物を買出ししてからラタトリーユとリゾット、Paolo お奨めのモツアレラに似た柔らかいチーズ、生ハムをサルデーニャ産白ワインで頂く。

マリーナのシャワールームがポンツーンをぐるりと回って遠いのでゴムボートの試験を兼ねてゴムボートでシャワーしに行く。

## 5月12日 Villasimius～Santa Maria Navarrese 60NM 快晴

今日は60NM 走るのので07:35に舳いを解く。夏時間を採用しているの朝明るくなるのが6時過ぎである。その代り夜暗くなるのが20時過ぎで日中の時間を有効に使え、航海するには非常に便利である。

風は後ろからの6~7ノットの風だがクォーターからランニングでスピードが4ノット以下になってしまうので機帆走で6ノットをキープして走る。追っ手の風なので風を感じず暑く平田さんは上半身裸で暑さを凌いでいる。到着2時間前から風速が若干強まったのでエンジンを切って帆走を楽しむ。

18:00 入港。ここも電話で予約してあったので直ぐスタッフがポンツーンに来て舳いを取ってくれた。岩山と緑に囲まれた自然の良港で昨年も来たところだがお気に入りのマリーナだ。

早速町に出ておいしいそうなレストランを訪ねて探す。マリーナを見下ろす高台のお奨めのレストランで食事をする。ビール、白ワイン、イダコのアラビアータ、雲丹のパスタ、ポモドーロのパスタ、ポークチョップを食べるが味付けが自然で濃くなく、どれもおいしかった。そして最後にドルチェを食べて4人で80€うれしくなってしまう。

連日日差しも強く動き回っているの皆さん疲れを取るためシャワーを浴びてぐっすり寝る。私だけでなく皆さん艇の上では大変よく寝れるようだ。

## 5月13日 Santa Maria Navarrese 快晴のち曇り

今日はここでゆっくりすることにする。ここで軽油を入れる予定であったがここにはガソリンスタンドがなかったのでここから3NM離れたところにあるArlbataxのマリーナに11時に舳いを解き給油に行き、帰りに近くにある野花在きれいに咲いている無人島の小さな入り江にアンカーを打つ。

早速私は潜りスピードメーターの回転センサーを調べる。これは艇から回転センサーを外そうとしても外れないので貝の付着が原因かと思い点検に潜った。この海は船底に貝は着かないがポロペラには大分付着していた。貝も着いていなかったの再度艇から回転センサーを外したら今度は外れセンサーの貝を取ることができた。

お昼はソーメンと生ハム、白ワインで心地よい風を浴びながら昼食を楽しむ。暑い海とソーメンはぴったり合う。勿論ビールは必需品だ。

食後ゴムボートを降ろし島の周りを一周する。水が澄んでいるのと島の黄色い野花在美しく咲いている。その中をカモメが白い羽を広げ飛び美しい光景であった。

16時にはマリーナに戻り一杯飲んだ後それぞれシエスタを取る。

20時に昨晚行ったレストランがおいしかったので今晚もそこで夕食することにする。レストラン

に行ったら日曜日のせいか海の見えるテラスは一杯で部屋の中の席に座る。イタリア語が堪能な百合子さんのお蔭で料理の注文も思いのまま出来ていつも楽しみだ。

日中ワインを飲みすぎたのでビールを頼みパスタ数種類、ムール貝、ビーフステーキ、ポークチャップ、野菜サラダを皆さんで分けながら頂く。今日もおいしさ、お値段に大満足で帰る。シャワーに入り疲れた体を休める。

5月14日 快晴 強風

今日は予報通り北風が強く吹き海上は白波が立っている。

9時にマリナーでレンタカーを受け取り内陸のドライブに行く。Nuoro を最初の目的地として行く。ガーミンの携帯用GPSが非常に役に立つ。チップ一枚でヨーロッパ全土を網羅している。Nuoro は内陸で高原の山岳地帯を野花、放牧の牛、ヤギ、馬を見ながのドライブだ。

途中でチーズを作っている小屋があり、見学して試食させてもらったが、新鮮でおいしかったので早速買った。また国道沿いに点々と町があり伝統的なサルデーニャの民芸品を販売しているところに寄って買い物をする。

Nuoro では学生が入るようなレストランでランチを食べる。ミートソースのパスタを2皿、ソーセージの盛り合わせ、サラダ、ビール、ワイン、ティラミス、エスプリッツを飲んで 29€、味もおいしく安く感激である。

食後伝統的民族衣装を展示してあるサルデーニャ生活・民族伝統博物館を見学する。ドイツからの団体の観光客が来ていたがひげのドイツ人に私のひげが立派であると誉めてもらい満快だ。

その後 Orroli までヌラーゲを行くつもりで車を走らしたが到着時間が 19 時ごろになってしまうので諦めて途中よりマリナーに戻る。明日からの分のミネラルウォーターとビールを車なので大量に買う。

5月15日 Santa Maria Navarrese~La Caletta 40NM 快晴

昨年通ったコースの逆コースなので気楽である。気楽が油断を生んで出港時普段は沈んでいる筈のバウの舳の引きロープが浮いていてそれをスクリューに絡ませてしまう。

マリナーに幸いダイバーショップがあり其処に頼ロープを外してもらう。50€で請け合ってもらったが助かった。この間両サイドの艇が舳を取ってくれたりして手助けしてくれた。

そんな訳で出航が遅れ 09:50 に再度舳を解く。天気快晴なれど風弱して機帆走になる。2時間位でクォーターからの12ノット強の良い風が吹き始め帆走を始める。スピードは5~6ノットをキープする。海面は昨日の強風の名残で若干のうねりがあったがスムーズな航海であった。平田さんとウオッチを交代しながらであるが休んでいるときの転寝は心地良かった。

お昼は百合子風ジャーマンポテトとおむすびを頂く。玉ねぎの味とポテトの甘さがマッチングして美味しかった。

17:10にLa Caletta入港。陽が長いのでいつも夕食が20時過ぎになるが入港後の手続きをした後熱っぽいのでベッドに横になる。体温を測ると37.5° あったのでバッファリンを飲んでそのまま休む。

平田夫妻、悦子はポモドーロとフンギとズッキーニのパスタの2種類を作り夕食とする。私はその日は熱があるので思い食事もしないでぐっすり休む。

## 5月16日 La Galetta 快晴

未明からマエストロ(北西からの強風、フランスではミストラル)が吹き始め艇でも45ノットの風速を測定する。増し舳いをする。お昼までに弱まってきたが艇で待機する。

私の腕が2日ほど前より腫れてきて痛みがあるのと又熱が出てきたので何か悪い虫に刺されたのではないかと思い医者に見てもらいに行くことにする。

マリーナオフィツで病院を聞くとLa Galettaには病院は無く昨日行ったここから50km先にあるNuoroにあるとの事、車がないと云ったらなんと救急車を呼んでくれた。救急隊員も親切で世間話を道中してくれた。イタリアは一部の人が富を握り過ぎていると嘆いていた。

約40分で病院に着き救急車のお蔭で手続きもスムーズで美人の優しい看護婦さんに付き添われて若い感じの良い先生に診て頂く。多分クラゲに刺されたのでしょうと云うことで湿布してもらい処方箋を頂く。

薬局への道を会計の時教えてもらいその道を歩いていると車が止まり盛んにイタリア語でしゃべりかけてくる。私がイタリア語は解らないと云うと取り敢えずドアを開き乗れとジェスチャーする。

乗ってやっとわかったのだが私が会計で薬局への道を聞いているときに横に居たおばさん二人で薬局に行くのを知っていて薬局まで乗せて行ってくれたのだ。歩いたら結構な距離があったので助かった。本当に親切だ。またまたイタリア人が好きになってしまった。

帰りはタクシーをパブに入り呼んでもらったが、そこに居た人々が自分の知っている日本語の単語を話す。どこで日本語を知ったのかと聞くと日本の漫画の本から知ったそうだ。

前は病院費用が高かったが今回は25€、薬代49€、タクシー代86€とタクシー代が一番高かった。そして救急車代は無料だった。帰りが遅くなり8時頃になるので皆さんには食事を先にさせて頂く様お願いしてあった。

皆さんは街に食事に行き、コース料理を食べたが半分ボトルのワインがついて魚のコースが10€、肉のコースが15€と嬉しいお値段だったそうだ。

## 5月17日 La Galetta~Porto Cervo 40NM 快晴

昨日の病院での治療の成果で今日は体調が良くなる。

昨日の打って変った穏やかな海面だが風は北からの向かい風だ。仕方なく機走で走る。

2時間程すると方上りに近い風が10~12ノット吹いてきたのでセールを上げて帆走に移る。途中からコスタ・エスメラルダに入り島の間をタックしながらセーリングと景色を楽しむ。お昼は温麺を頂く。

Porto Cervoの入り口の両サイドにはホテルと別荘が見える。その間に自然の良港Porto Cervoがある。此処Porto Cervoは1960年代にアラブの王子アガ・カーンが気に入り開発した超高級リゾート地だ。シーズン前なのか電話の予約も問題なく取れマリーナも閑散としている。



此処では平田夫妻は Porto Cervo の豪華ホテルを味わってみたいということで 2 泊予約していたのでお二人はホテルに向かう。

未だ地中海はシーズンオフでマリーナの料金は安いのだがここは一日 100€だ。昨日の La Calleta は 24€なのでいかに高いかが分かる。

マリーナのバーで悦子と一杯やったのちショップを覗く悦子は早速欲しかった靴があったと購入する。

艇に戻るが私は未だクラゲの後遺症があるようで熱ぽくなったので休む。悦子はサフランのリゾットを作って食べた。